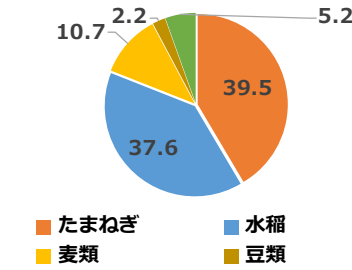


次世代へつなぐ足腰の強い農業技術の基盤づくり ～成果をつないでスキルアップ～

上川農業改良普及センター富良野支所地域第二係

対象地域の概要

対象地域：中富良野町旭中北三地区（6戸）
平成30年 国営富良野盆地土地改良事業完了 地下かんがい活用

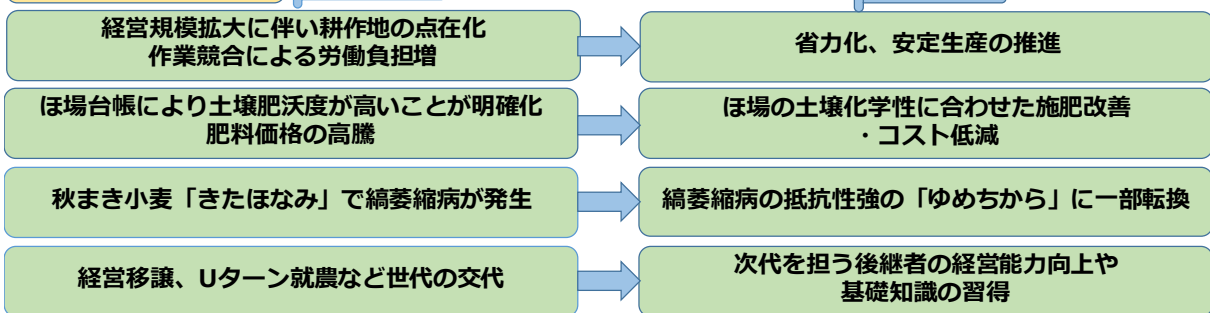


経営主の平均年齢：47歳
(20代1人、30代1人、40代1人、50代2人、60代1人)
労働力：3.3人/戸
耕地面積：95.2ha
平均耕地面積：15.9ha
(最大26ha 最小10ha)

1 課題設定の背景

課題

対策



2 活動の経過 (活動内容)

具体的推進事項1：主要作物の安定な収量・品質の確保

省力化・コスト低減技術の検証と確保

- 水稲→無代かき移植栽培の生育状況確認と情報提供
- たまねぎ→ほ場管理台帳を基に減肥の提案・実証ほ場設置

畑作物の安定生産

- 秋まき小麦→「ゆめちから」起生期追肥量試験ほ場設置 (写真2)
ほ場別の追肥量および収穫適期の助言

具体的推進事項2：経営管理能力の向上による経営力強化

- SWOT分析 (経営環境を内部環境の強みと弱み、外部環境の機会と脅威の4つの要素で要因を解析) により導かれた個々の改善目標に対するプラン作成に向けた活動を行った (図2)
- 財務諸表の見方、経営状況の把握



写真2 「ゆめちから」起生期追肥量試験ほ場



図2 SWOT分析改善シート

成果の共有化と今後の活動に向けた検討 (活動報告会) (写真3)

- 実証ほ場の調査結果等の報告 (活動結果の報告)
- 対象農業者の感想や意見の集約 (活動結果の評価)
- 次年度に向けた活動要望の確認 (活動計画策定の準備)
- 関係機関 (中富良野町、JAふらの) との活動連携



写真3 活動報告会の様子

3 成果の具体的内容（活動の実績と波及）

具体的推進事項1：主要作物の安定な収量・品質の確保

目標事項
省力化・コスト低減技術の実践面積
現況：6.8ha 目標：7.8ha
実績：9.0ha 到達度115%

実証
たまねぎでは場管理台帳を基に窒素施肥量を慣行区に比べ約15%減らした実証ほ場を4カ所設置して、生育および収量を調査した（写真4）

表1 収量調査結果

氏名	慣行区に対する割合(%)		
	減肥割合	総収量	規格内収量
A	83	110	116
B	83	101	103
C	88	104	109
D	83	127	153

成果
減肥しても、生育や収量に影響がないことを実証した（表1）
省力化・コスト低減技術の実践面積が増えた

波及
減肥の取り組みがJAふらのたまねぎ青年部に波及した（6戸）




写真4 減肥実証による生育状況の確認

目標事項
「ゆめちから」の適正施肥実施戸数
現況：0戸 目標：1戸
実績：1戸 到達度100%

実証
ほ場別に生育調査を行い、幼穂形成期および止葉期にほ場別の追肥量を、成熟期頃に収穫適期について助言を行った

表2 秋まき小麦の収量(kg/10a)

品種	調査対象	R 4年産	R 5年産
		きたほなみ	J A平均
ゆめちから	J A平均	586	591
	農業者聞き取り	640	600

成果
「ゆめちから」の窒素追肥でほ場別に生育調査に基づいた助言により高収量が確保された（表2）

具体的推進事項2：経営管理能力向上による経営力の強化

表3 SWOT分析結果と改善目標

	SWOT分析の解析				改善目標
	強み	弱み	機会	脅威	
A	たまねぎの規模拡大	リスクの分散	たまねぎの調製施設強化	資材費の高騰	たまねぎ反収5基 秋小麦10俵どり
B	家族経営 販売先の確保	家族の高齢化	ふらのブランド	資材費の高騰	畑作・園芸作物の強化 スマート農業の実践
C	機械の充実 水稲収量が安定	たまねぎの コスト高	たまねぎ販売の充実	資材費の高騰	品質・収量のアップ
D	コストの低減	労働力の確保	同世代農業者との交流	資材費の高騰	水稲面積の拡大 アスパラガスの拡大
E	機械化による 効率生産	たまねぎの 価格	後継者の就農	資材費の高騰	たまねぎの面積拡大 経費の削減
F	高収量の確保	投資資金	機械屋との繋がり	価格が不安定	全品目でトップレベルになる

目標事項
経営改善プランの作成
現況：0戸 目標：2戸
実績：6戸 到達度300%

実証
個々のSWOT分析結果の解析
改善目標の確認（表3）

成果
結果の解析により営農改善プランの原案を作成した

4 結果の考察（成果が上がった要因）

省力化・コスト低減技術の検証と確保

肥料価格高騰により減肥に対する意欲が向上した

畑作物の安定生産

起生期追肥量試験ほ場の設置が助言を求められるきっかけとなった

経営管理能力の向上による経営力の向上

経営状態の把握により適切な経営目標を作成できた

5 今後の対応（次年度の活動案）

省力化・コスト低減技術の検証と確保

①水稲：L字型肥料の効果と経済性を確認する
②たまねぎ：減肥の更なる実践と波及拡大を図る

畑作物の安定生産

窒素施肥シュミレートツール「NDAS」の適合性を現地で確認をする

経営管理能力の向上による経営力の向上

個別に営農改善プランに基づく栽培や管理技術の支援を行う